

大辻清司の写真と文による作品「大辻清司実験室」 （『アサヒカメラ』1975年連載）の 生成過程に関する研究

芸術学部
写真・映像メディア学科
教授
大日方 欣一



研究シーズの紹介

20世紀後半の日本において写真家、写真批評家、教育者として多大な業績を残した大辻清司（1923-2001）の代表作「大辻清司実験室」（1975年『アサヒカメラ』通年連載）をとりあげ、この作品を構成する写真及びテキストの生成過程を検証

し、大辻を取り巻いていた同時期の日本や海外における様々な写真表現、写真メディアをめぐる批評言説等との関連を分析し、同作品の歴史的な位置づけを明らかにする。



アーカイブ構築

- 写真家が残した原資料を検証・目録化し、公的なアーカイブを構築する作業に基礎づけられた研究をすすめます。



期待される活用シーン

- 国内外の美術館より、大辻清司アーカイブへの調査依頼、画像提供依頼が続いています。



大辻アーカイブに潜在する価値を、各美術館の担当者と協力し、さまざまな企画展で活用しています。



- メディアリテラシー教育において、本研究の成果活用が期待されます。



写真表現が生成する内的過程を検証できる、アーカイブ資料の研究・公開をすすめています。



その他の研究テーマ

1970年代の美術と写真・映像に関する研究
地域映像資料のアーカイブ構築に関する研究